

高高アウェイで勝利

定期戦4連覇の要因



翠巒
Mini Press
第163号
2019/10/18

編集・発行
高崎高校新聞部

紙面紹介

- 〈表面〉
 - ・活躍した班
 - ・前高学食、購買
 - ・高高印象
- 〈裏面〉
 - ・英語、ラクレ、
 - 硬テニ部・数コン

9月21日に行なわれた第73回高前定期戦は98、5対81、5で高高が勝利し、4連覇を達成した。会場はアウェイの前橋高校(以下、前高)だった。当日は前哨戦で9点差をつけた勢いそのまま、日頃の練習の成果を発揮し、勝利した。今回は、中でも特に活躍した綱引き班と長縄班に取材した。また、前高生の高高への印象、前高の学食と購買について取り上げた。

長縄班

長縄班は、全チームが勝利した。

Aチームは240回、Bチームは225回、Cチームは200回を目標とし、朝、昼休み、放課後に15分ずつ練習した。

チームの永井輝君(3の5)は、今年の定期戦の感想について「最初は100回も飛ぶことができなかった。しかし、井上貴志先生を中心に多くの先生が駆け付けてくれたおかげで士気が上がり、本番までに目標回数を達成できるようになった。また、当日は自分のペースが乱れないよう、事前に『決めた回数分だけ飛ばせば勝てるから、それだけは飛ばさず』と皆で話した。以前は負け越してしまっていたので、3タテできて嬉しい」と語った。



綱引き班

来年の定期戦に向けて「負けに負けて自分たちのペースで頑張りたい。来年もまた3タテしてほしい」と後輩にエールを送った。

綱引き班は全学年が勝利し、合計9点獲得した。



前高の学食・購買

高高とはなりの強みとは

前高には、学食と購買がある。定期戦当日の昼食で利用した高生も多いのではないだろうか。

学食の従業員に話を聞くと、「前高の学食は、蛟龍館が建てられた頃から約30年間続いている。ほぼ毎日、昼休みに営業していて、普段は60人から70人、多い時で100人程

の前高生が利用している」と語った。材料は安いものを選び、手頃な値段で提供できるようにしているという。「学食があると親御さんが楽になるので、高高に学食があるのも良いと思う」。

また、購買は、1階と2階で別の会社が経営している。2階の購買の店長によると、「お互い競争することで、より良いサービスが提供できている」という。「私たちは、良質のパターを使った約40種類のパンを販売している。どれも市販より10円から40円安くしている。販売時間直前に搬入するようにして、出来立てで温かいパンを販売するようにしている」とこだわりを語った。(高橋)



学食の「カツカレー」

道部部長を務めた。現在は、前高の剣道部に所属しており、今年の定期戦では、剣道部対抗の勝利に大きく貢献した。

前高の志願理由は、小学生の頃から、勉強が得意、剣道も強い前高の剣道部に憧れていたからだ。

特に、行事への取り組み方が素晴らしいと思う。毎年行なわれる翠巒祭では、実行委員をはじめとする生徒全員の計り知れない苦労が感じられる。来場者も1万人を超えているので、頭が下がる。また、部活動の活躍にも目を見張るものがある。運動部、学芸部問わず、関東、全国大会へと出場する部活動が多いので、高いレベルでの文武両道が達成されていると感じる。

今年創立142周年を迎えた県下一の伝統校であることだ。これは、高高よりも20年長い。

今年も良い定期戦をありがとうございました。負けてしまえば絶対にリベンジするので期待していただきます。(高橋)

前高生に聞いた!

高高の印象とは

今年の前高定期戦は前高で行なわれたというところで、前高生に取材を行なった。取材に際して、見供凌太君(2年)は、見供凌太君(2年)だ。見供君は、小学生時代に剣道を始め、中学では、生徒会長と剣

NOTE

時代とともに、「流行」は多くの人々を左右するほどの影響力を持つものへと成長した。逆に、私たちは「個性」を失ってきている。広辞苑では、「個物または個体に特有な特徴あるいは性格」と記されている「個性」だが、簡単にいってしまえば「自身が持つ好み・考え」である▼服装も「流行」の1つである。私たちは「今年のトレンドカラー」などと題して、最新情報が各メディアで発信されているのをよく目にする。そして、お客様の要望に合わせて店舗も「流行」に吞まれてしまっているのが現状だろう▼一方で、街には古着屋が点在している。古着の1番の魅力は「個性」を取り戻すことだと思ふ。古着屋には、長い歴史の中で流布ってきたものがたくさん陳列されている。色々な時代・ジャンルの服を目にすることで、「流行」を気にすることなく「好きな服」を選び、「自分らしさ」を表現できる。古着屋はいわば「『流行』に歯止めをかける存在」ではないだろうか▼現在、人々は見かけだけで物事を判断し、皆に合わせようと自らの判断基準を失ったことで、流行を追わざるを得なくなってきた。このままでは、全員が同じ服を着るようになってしまふ。それは、社会が単色の世界になるということではないだろうか。多種多様な色を持った世界を作るには「個性」の確立が必要不可欠だが、それを見つめる鍵は身近なところにあるのかもしれない。(宮内)

県数コン 2人が優秀賞 英語部ら大会へ

数コン

7月23日に、高高をはじめとする県内4校で「群馬県高校生数学コンテスト」が行なわれた。野口俊悟君(3の1)と佐伯凜人君(2の1)が優秀賞を獲得し、9月11日に表彰式が行なわれた。



佐伯君(左)と野口君(右)

今回の結果を佐伯君は、「賞を取れると思っていなかったので嬉しい」、野口君は、「最優秀賞が前高の1年生だった。」

連載第2弾 事務室の実態



小金澤さん(左)と西潟さん(右)

高高には、教員の他にも事務室で働く方々がいる。しかし、その実態を知る生徒は少ない。そこで、事務室の小金澤さんと西潟諒人さんに話を聞いた。

事務室では何人勤務しているか。
5人の職員が働いている。事務室には普段いないが、図書館の司書や公士の方は事務職員という扱いになっている。
事務室のの仕事は。
先生方の給料や奨学金の管理、福利厚生などを行っている。また、来校者への対応も行なうため、事務室は「学校の顔」となっている。来校者への対応には特に気を使っている。
職員室や通信棟との関係

英デイベ



部長の長井君

9月21日に、英語部は「令和元年度群馬県高校生英語デイベート大会」に出場し、20チーム中8位という結果だった。部長の長井君は、「日本は、最長平均労働時間をEUにならなくて週48時間に制限するべきか」と話した。

硬式テニス 収穫多き新人戦



部長の布施君

9月21、22日にA.L.S.O.Kぐんまテニスコートで、「令和元年度群馬県高等学校新人テニス大会」が行なわれた。ダブルスに出場した小山田匠

吾君(2の1)・布施智也君(2の1)ペアは1回戦で惜しくも敗退した。また、シングルスに出場した小山田君は見事1回戦を突破するも2回戦で敗れた。

部長である布施君は、「ポイントを取れる場面でもミスが多くなってしまった。基礎的な能力を高める必要があると感じた」と反省点を述べた。その中でも、収穫できたことも多かったように「上

位レベルの選手と対戦し、上手なプレーを見て学んだりすることができたので、良い経験になったと思う。また、今大会を通して、改めてミスをしてはいけないことの大切さに気づくことができた」と話した。最後に、部員に向けて「今大会で学んだことを活かして、小さなミスをしないようにして行ってほしい。これからは、最初からハイレベルな練習をするのではなく、基本練習をコツコツと積んで基礎的な技能の向上を目指して頑張っていてほしい」と話した。

(青木)

ラグビー 夢の花園へ 全国大会出場誓う



県予選に向け練習に励む部員たち

「まずはベスト4に入って花園出場への第一歩を踏み出した。3年生は自分分しかいないが、2年生の実力は着実に伸びている。厳しい戦いになると思うが勝たいたい」と意気込んだ。また、部員に向けて、「1試合でも多

第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会(以下花園)出場をかけた県予選が開催される。高高は10月20日に八千代グラウンドで前橋育英対合同チームAで勝利したチームと対戦する。それを制すると10月26日に県営ラグビー場にて農大二校と一戦交える。そこで、部長の相澤徹平君(3の7)に話を聞いた。

最後に、「20日の試合は高高に近い会場で行なわれるので、ワールドカップ以上に熱い戦いを見に来てほしい」と話した。

(青木)